

## 令和元年度 第2回「佐世保市環境教育等推進協議会」議事要旨

日 時：令和2年2月18日（火）10:00～11:45

場 所：させぼエコプラザ 工房

出席者：【委員】

芳賀会長、佐藤副会長、片渕委員、高橋委員、上田委員、西浦委員、  
小野委員、宮本委員、山本委員、松本委員、須藤委員

【事務局】

高島次長、濱崎課長補佐、西嶋係長、小森主任主事、浅井主事、山口主事

会次第：

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
  - (1) 令和元年度における計画の進捗状況等の報告
  - (2) 令和2年度の取り組み
  - (3) その他
4. 閉会
5. エコプラザ見学

<p>議事 (1) 令和元年度における計画の進捗状況等の報告</p> <p>《資料1》、《令和元年度における計画の進捗状況等の報告》</p>	
<p>事務局</p>	<p>【《資料1》1ページ】</p> <p>第2次佐世保市環境教育等推進行動計画では、「環境市民」を育成し、佐世保市環境基本計画に掲げている「自然と共々生きるまち させぼ」の実現に向けて、図1に示している「環境教育プログラムの実施」「地域における環境教育の充実」「学校等における環境教育の充実」の3つの柱を中心として事業を推進している。</p> <p>図2については、各施策に関連する主な取り組みを図示しており、取り組みの中には、3つの柱の中で重複するような取り組みもあるので、少し見にくいイメージとして記載している。</p> <p>【《資料1》2ページ】</p> <p>6月に海浜植物や干潟に生息する生物の観察会を行った。</p> <p>本市には、全国的にも希少な生きものが多く生息・生育していることや、開発行為・地球温暖化などの影響で、生育場所に変化があると生きられなくなってしまう種の存在などについても学ぶことができ、参加者が環境について考えるきっかけになった。</p> <p>子どもたちも、講師へ積極的に質問しており、関心の高さがうかがえた。</p> <p>【《資料1》3ページ】</p> <p>九十九島ビジターセンターを会場とし、幼稚園・保育所の先生方を対象とした、環境教育プログラムの体験会を実施した。</p> <p>参加者の募集に際しては、幼稚園協会、保育会のほか、当協議会の委員であります山口委員と古川委員についても、広報のご協力をいただいた。</p> <p>講師として、プロジェクトワイルド長崎県代表の衣川氏をお招きし、通常の保育の中で簡単にできるプログラムを先生方に体験していただき、各園で実施したいといった意見もあった反面、年少児には少し難しい面もあるとのことのご意見もいただいている。</p> <p>また、現在、参加された先生方に、実際に園で活用されているのか、問題点などないかをお聞きする、フォローアップアンケートを1月に実施した。</p> <p>まず、実践できている先生のご意見としては、幼児へ環境問題といっても理解することは難しいが、身の周りの自然環境に触れることで、知らず知らず身近な自然などへ興味を持ち始める子どもいたとのことであった。</p> <p>実践できていない先生のご意見としては、カリキュラムや他の行事との調整がつかないことや、準備が必要なものについては、なかなか実践できないといったご意見があった。</p>

実践できていない先生方に対しては、本市で行っている講師派遣制度などを活用してもらうこともできるのではないかと考えられるので、体験会の時に講師派遣制度があることは、お知らせしているが、再度、広報を行っていききたいと思う。

【《資料1》4ページ】

全国的にも希少な「ニッポンバラタナゴ」が生息する水路を管理している土地改良区の方々と協働で、地元の子どもたちを対象に、保護活動を行った。

子どもたちと個体数調査や観察を行い、希少種保護の意識を高めることができた。

【《資料1》5ページ】

今年度、新たな取り組みとしまして、地区自治協議会と連携した事業として試行的に実施した「街あるき温暖化教室」。

今回は中里皆瀬地区自治協議会の協力を得て参加者を募った。

講師して、佐世保地区連合史跡保全会の久村会長を講師としてお招きし、気候変動を経た縄文時代等の遺跡を散策し、当時の生活変化を実感していただき、現在、進行している温暖化や、私たちが温暖化防止に取り組めることを紹介した。

今回は、大人と子ども一緒にイベントを実施したが、内容が難しいところもあり、今後は、大人と子どもを分けるなど検討をしている。

【《資料1》6ページ】

こちらも、今回新たな取り組みとして、市役所の主に公共工事を担当する職員を対象として、研修を行った。

今回の研修を通じて、職員一人ひとりが、生態系や希少野生生物の重要性について認識を深め、より環境に配慮した実効性のある取り組みへと結び付けていく。

【《資料1》7ページ】

長崎短期大学保育学科の1年生全員を対象として、体験会を実施した。座学ではなく、体験を中心に講座を行うことで、学生の興味を引き出し、自ら積極的に参加してもらえた。

今後、学生が保育現場へ実習に行く際や、将来就職した先でも実践してもらうことで、感受性が豊かな幼児期からの環境教育を推進できるきっかけづくりができた。

短大の先生方からも好評であったので、来年度も継続していければと思っている。

【《資料1》8ページ】

こちら長崎短期大学の保育学科の学生を対象とし、また、ビジターセンターのご協力を得て、実施した。

学生自らが佐世保の自然に触れるだけでなく、子どもたちへ自然体験の楽しさなどを伝える手法についても学んでいただいた。

【《資料1》9ページ】

講師派遣制度である「どこでも環境教室」の1月末日現在の実績である。件数については、例年並みとなっている。

【《資料1》10ページ】

同じく講師派遣の事業である「長崎県環境アドバイザー派遣事業」の1月末日現在の実績である。こちら例年並みの件数となっている。

【《資料1》11ページ】

課題に対する進捗状況として、前計画の課題や昨年度から前回までの協議会でいただいた意見についての取組状況を報告する。

まず前計画の課題への取組状況の1項目目「させばエコプラザの体制整備」について、環境関連講座などの参加者数は増加しているが、講座等の事前準備や講師の人手不足といった課題が挙げられており、させばエコプラザの体制整備が必要であるとしていた。

現在の状況としては、エコプラザでの職員を増やし、各職員それぞれが講座を実施できるよう体制を整えているところである。

今後も、市民の要望に応えられる体制を整えていくこととしている。

2項目目についても、1項目目と同様の課題から、指導者の育成を進める必要があるとしていた。

現在の状況としては、幼稚園・保育所の先生への体験会の実施、長崎短期大学の学生への講座を実施しており、引き続き、実施していくこととしている。

3項目目については、現在関わりの少ない大学生などの若者世代が参加できるような仕組みづくりも必要であるとしていた。

現在の取組状況については、長崎短大との連携や、県立大学の学生を地球温暖化防止活動推進委員として委嘱するなど、学生が主体となって行動してもらえるような事業を行っており、引き続き、大学生を取り込めるような事業を行っていくとともに、今後は、高校生への働きかけについても検討を行うこととしている。

また、記載はしていないが、芳賀会長からも短大だけではなく県大生や国際大の学生が参加できるような取り組みを検討してみてもといったアドバイスをいただいているので、芳賀会長、佐藤副会長のお力添えをいただきながら、進めていきたいと考えている。

4項目目については、環境に関する情報を、本市やさせぼエコプラザのホームページへ、分かりやすく掲載することや、積極的に SNS 等を活用し情報発信し、地域の現状についての理解を深めることが重要としている。

現在の取組状況については、市のホームページで環境関連イベント情報、Twitter で環境に関する情報を掲載することや、エコプラザの Facebook でイベント情報の発信を行っており、今後も引き続き、実施していくこととしている。

5項目目については、佐世保環境アドバイザー、環境保全活動団体登録数が少ないといった課題で、現在の取組状況としては、昨年度から数が増加していない状況となっており、各団体へ直接訪問するなど、働きかけを強化していくこととしている。

#### 【《資料1》12ページ】

ここでは、協議会でいただいた意見の取組状況について報告する。

1項目目、出前講座等を市内の校長先生が集まる校長研修会で紹介することで活用する学校は増加するのではないかといったご意見をいただいたので、片淵委員、高橋委員のご協力を得て、1月に小中学校それぞれの校長研修会で説明を差し上げた。今後も定期的に事業の紹介を行っていきたいと考えている。

2項目目、エコプラザへ来館者があまりいないように感じるといったご意見であった。

取組状況としては、今年度については、テレビ佐世保で環境に関する啓発に併せて、エコプラザの紹介も行っている。今後も、市民の方へエコプラザを知ってもらえるよう広報活動を継続していきたいと考えている。

3項目目、環境学習サイト「eカンキョウ@サセボ」へアクセスしてもらう仕掛けが必要であるといったご意見であった。

現在は、本市の環境について、最新の情報に更新しているのみとなっているので、今後、本サイトの見直しを含め、見せ方を検討して行きたいと考えている。

	<p>4項目目、環境保全活動団体登録を行っている団体に対して、環境に対する正しい知識を持ってもらうための講座等の機会を設けてほしいとのご意見をいただいている。</p> <p>現状では、団体に対する講座等につきましては、開催できていないので、今後、講座等を行える体制を整備していきたいと考えている。</p> <p>5項目目、環境に関する人の認定制度の創設についてご意見をいただいている。</p> <p>現在は、個人に対しましては「環境アドバイザー」としての登録、小中学校に対しては「学校版環境ISO認定制度」、事業者に対しては「e宣言@サセボ」認証制度を運用している。</p> <p>今後、新たな制度の対象者や設定方法等を研究していきたいと考えている。</p> <p>6項目目、環境への対策は、企業にとってはイメージアップにつながることから、市内の企業へ佐世保市の事業への参加の働きかけについてご意見をいただいている。</p> <p>現在は、「e宣言@サセボ」、「エコアクション21」取得支援を行っている程度なので、今後、させぼエコプラザを中心として、企業との連携強化の取り組みについて検討していきたいと考えている。</p>
委員	どこでも環境教室を利用している小学校の対象学年・実施学年は何年生が多いのか。
事務局	4・5年生が多い。
委員	長崎県環境アドバイザーについても同様なのか。
事務局	そうである。
委員	学校が申し込まれる場合、市からの働きかけで申し込まれているのか。
事務局	市からの広報や、リピーターが多い状況である。
事務局	担当される先生とのつながりもある。
委員	<p>申し込んでいる学校が偏っているようである。やっていない学校についての対応を考えなくてはならないのではないかと。</p> <p>依頼があってからやるのではなく、市全体として例えば、北部・中部・南部と3か年かけて全学校で実施するなど行っていくことが必要ではないかと。</p>
事務局	学校でも授業カリキュラムの関係で、中々難しい部分もある。そのような中、1月の校長研修会で講師派遣制度の説明を行っている。まずは、小中学校の校長先生に知ってもらい、少しずつ広げていくようにしている。
事務局	今年度から、市内の全小学4年生を対象とした「ふるさと環境自然体験学習」という事業が始まっている。

事務局	エコプラザで全学校を個別訪問してもらい、環境教育について営業活動のようなことも行っており、草の根活動といったところから、つなげていくといった形も行っている。
委員	校長研修会での状況はどうであったか。
委員	環境教育をやりたいと思っている学校が、どのように市へ申し込んだらよいのかわからないところもあったので、校長研修会の場で、説明してもらったことは、ありがたかった。校長も異動があるので、年に2, 3回説明してもらってもよいと思う。
委員	本校はエコプラザの講師派遣制度を利用しているが、今回の資料では、そこが見えない。そのため、エコプラザもやっているんだと、見せれる資料となればより良いと思う。
委員	エコプラザでは、学校からの依頼で、特に水・ごみ・エネルギーといったことを中心にお話しさせてもらうようにしている。 パリ協定が始動していくことや、温暖化が進行している中で、佐世保の自然を守るためには、温暖化対策が非常に重要であるというベースの部分を知ってもらうため、プログラムをもう少し、ネイチャー体験だけではなく、そういった視点を取り入れていければと思う。
委員	エコプラザの来館について、実際に来館された時に、ポスターなど掲示物を見ただけで終わってしまうといった印象である。 もっと、興味を持たせるような、環境について調べ物ができたり、クイズを掲示したり、この場で学習できる楽しい場所といった雰囲気を作ってみてはどうか。
委員	エコプラザの掲示物については、予算の関係もあるので、中々立派ものは難しいかもしれないが、マンパワーを使いながら、現在は、毎月第3水曜日を「ふくくる市」として、不要なものを持ち寄って、フリーマーケットを実施している。手作りではあるが、先日、延べ600名ほど参加いただいた「エコライフフェス」を実施して、地道なところから、みなさんにエコプラザを知ってもらうといった活動を行っている。
委員	まずは、エコプラザへ来てもらうことが大事であると感じた。 各イベントについて土日が多いのはなぜか。
事務局	子どもたちとその保護者が多く参加していただけるように、土曜日、日曜日に設定している。
委員	11 ページの課題に対する進捗状況で、指導者の育成とは、保育士や短大の学生を育成していくことなのか。
事務局	そのほか、各イベントを講師として行えるような人材の育成も目指している。
委員	環境アドバイザー、団体登録数が少ない理由はあるのか。
事務局	広報、認知不足である。

委員	環境に関する人の認証制度の創設についても、おそらくは認知度があまりないのでいったところではないかと思うので、新たな制度の創設というよりも、広報し認知されるような取り組みが大切であると思う。
委員	実際にエコプラザの講師派遣制度を利用させてもらった。 参加いただいた方も、わかっていたようなことでも、新たな気づきがあったように感じた。
委員	団体登録を行っているところに講座等を行ってほしいとことであるが、エコプラザでは、地球温暖化防止活動推進委員へ研修会を実施しているので、一緒に連携して研修を行えば、より有意義なものとなるのではないかと思う。
事務局	現在は、団体登録をされているだけというのが実態である。そういった方々から連絡を待つのではなく、市のほうからのプッシュ型の何か働きかけをやっていきたいと考えている。その際には、ご協力をお願いします。
委員	ぜひ、団体登録を行っていただいている方々にも、地球温暖化防止活動推進委員になってもらえたらより良いと思う。
委員	地球温暖化防止活動推進委員の大学生から、何かこういったことをやりたいといった提案や意見などは、あっているのか。
事務局	こちらには、あがってきていない。
委員	アドバイザー、団体登録のやり方はどのようになっているのか。
事務局	アドバイザー登録、団体登録を行っていただいているところは、環境関連の活動を行われている団体である。制度開始当初は、各団体への呼びかけや、ホームページで登録団体を紹介するといったことをやっていたが、更新や新規といったことがほとんどない状況であり、掘り起こすといったことができていない。



議事 (2) 令和2年度の取り組み《資料2》

事務局

【《資料2》1ページ】

令和2年度の取組方針としては、引き続き、佐世保市環境基本計画に掲げている望ましい環境像「自然と共によりいきるまち させぼ」を継承していくため、第2次佐世保市環境教育等推進行動計画に則り、環境市民を育てる環境教育を推進し、持続可能な社会を目指していくこととしている。

計画期間が今年度から令和4年度となっており、各指標に対して、12月末現在の状況、今年度の目標、来年度の目標、最終年度である令和4年度の目標を記載している。

表のオレンジ色の1行目、2行目「環境関連講座の実施回数、参加者数」と表の青い色の4行目と5行目「自然体験会等の実施回数、参加者数」の12月末現在の数値にそれぞれカッコ書きで示している数値については、計画策定時には予定になかった、教育委員会の事業として市内の全小学4年生を対象とし宮本委員がセンター長をされているビジターセンターで、九十九島について学習する「ふるさと環境自然体験学習」が今年度から始まっている。回数・人数が計画の目標値を大きく超えてしまうので、カッコ書きでその分を含めた数値とし、計画の進捗がわかるようにしている。

目標を達成できそうなところ、大きく超えるところについては、その数値を維持しつつ、内容・中身の充実を図っていかねばならないと考えている。

一方で目標に届かないものについては、目標を達成できるよう努力を続けなければならないと考えている。

【《資料2》2ページ】

令和2年度の取り組みとして、主に、赤色・青色で記載している項目について、説明する。

まず、オレンジで囲っている「環境教育プログラムの実施」の中の「親子でエコチャレンジ」は、親子が取り組める環境家計簿を実施していただくものである。家庭でも取り組める省エネ行動を5項目設定し、一定期間取り組んだ結果を感想文とともに提出いただき、温暖化防止の意識啓発を図るもので、来年度からは、連携中枢都市圏の事業として、東彼杵町、波佐見町、川棚町の東彼3町とともに事業を行うこととしている。

続いて、青で囲っている「地域における環境教育の充実」の中の「県環境アドバイザー」については、現在長崎県の方で、例えば、佐世保で30件も申請してしまい、佐々町では5件しか申請ができないといった偏りが生じないような制度への見直しを検討中とのことであった。

	<p>現在は、県の予算の範囲内で一団体につき2回までの申請という上限のみ設定されている状況で、佐世保市内からの申請数は、例年15件前後と、他市町に比べると多いようである。</p> <p>続いて、ビジターセンターとの連携としては、先ほども説明した、全小学4年生を対象とした「ふるさと環境自然体験学習」の実施である。</p> <p>続いて、自治協との連携について、資料1で説明したが、課題等も出てきたので、来年度は、子ども向け、大人向けとテーマを変更して、地区自治協議会と連携し、実施していきたいと考えている。</p> <p>最後に、緑で囲っている「学校等における環境教育の充実」の中の「学校版環境ISO認定」について、こちらの事業は、平成19年度から制度の運用を行っており、パリ協定やSDGs等の国際的な取り組み、学習指導要領の改訂、教職員の働き方改革、普通教室等への空調機設置など、学校を取り巻く様々な環境が大きく変化してきている。</p> <p>そこで、本事業を効果的・効率的に推進していくために、どの学校でも取り組みやすい制度へと見直しを行い、4月から運用を開始することとしている。</p> <p>具体的な見直し内容としては、まず、名称の変更について、本制度の目的は、電気や水の使用量等の削減目標を達成するためだけでなく、環境市民を育成することが最終的な目標であり、環境に優しい活動へ取り組むこと（アクションを起こすこと）自体に重要性を感じてもらい、学校生活だけではなく、家庭及び地域の環境負荷低減の取り組みへとつなげていくため、本制度の名称を「させぼエコアクションスクール」とし、略称をS-EAS（シーズ）としている。</p> <p>さらに、学校版環境ISO時代から含めて通算9年以上認定を受けている学校を「させぼエコマイスタースクール」として昇格させることとしている。</p> <p>その他の見直し点として、先生方の負担低減のため、作成していただく様式を7種類から2種類へと削減し、各学校が設定する目標を選択制へ変更している。また、認証期間を1年から3年へ延長している。</p> <p>その他学校への支援強化として、エネルギー使用量を環境部から各学校へ提供することや、講師派遣、取り組みが優秀な学校への表彰等を行うこととしている。</p>
委員	<p>県では、木育に力を入れていくといったことを言われているようであるが、森林、間伐材のこともやれたら視点も変わって良いと思う。</p>

委員	<p>三陸でカキの養殖をされている方がいるが、山からの栄養が来なくて、カキの育ちが悪くなってしまったという話がある。森林活動により、海のカキが大きく育つように、海が豊かになるという、海と森とがつながっているといったことを、佐世保でも伝えていけるような企画があると良いのではないか。</p>
委員	<p>佐世保の環境を守るためには、海、森、里山など全部がつながっているということを、子どもたちにきちんと伝えていかなければならないと思っている。また、それが、温暖化の影響で、100年に一度といわれる災害が、毎年起こっている状況となっている。</p> <p>気候変動の影響がすでに起こっているということを知ったうえで、ネイチャーゲーム、リサイクル講座へつなげていくことが大切である。</p> <p>ネイチャーゲームだけで行うと楽しいだけで終わってしまう可能性があることから、温暖化防止に関連付けて体系的に、学年の習熟度に合わせて、実施することが重要だと思う。</p> <p>適応策についても、今の子どもたちは、生まれた時から暖かい状況であるため、昔との違いが判らないといったことがあるので、そこもきちんと教えていかなければならない。環境に関しては多岐にわたることから、入り口は、身近なことから少しずつ広げていけたらと思う。</p>
委員	<p>温暖化の影響のみとは言い切れないが、海は、陸上に比べて影響を受けやすいため、海洋生物について、佐世保にはいなかった暖かい地域の生き物がいたり、生息していない時期にいたり、海と山がつながっているという話の中で海洋環境も随分変わってきているということも結び付けてやっていければ良いと思う。</p>
委員	<p>今年度からビジターセンターでは、4年生を対象としてスライドを用いて九十九島の紹介を行っている。実際に無人島で体感してもらいたいのだが、予算の関係もありできていない。</p> <p>子どもたちに対しては、あまり難しいことは言わず、まず、自分で自然の中に出て行ってもらえるような働きかけを行っている。</p> <p>ビジターセンターでも入館者数は多いが、実際に施設の奥まで入ってくる人は少ない状況で、近所の方も、パールシーへは来るが、ビジターセンターの存在を知らない方もいらっしゃる状況である。</p>
委員	<p>学校版環境 ISO 認定制度の改善について、端的に改善をして「させぼエコアクションスクール」という制度に置き換わるという理解でよいのか。</p> <p>よって、計画書の書き込みも「学校版環境 ISO 認定」としているところが、「させぼエコアクションスクール」に変わり、目標も準じて置き換わるということか。</p> <p>認定校は、改めて認定し直す必要があるのか。</p> <p>具体的にどう学校が取り組みやすくなったのか。</p> <p>今後、ここについての課題が認知不足となっているので、認知度を上げるような働きかけを期待したい。</p>

	<p>自治協議会との連携では、中々働きかけにくいところでもあると思う。今、自治組織内での専用のアプリができたと聞いているので、そういったものも活用しながら広報をしていけたらよい。</p>
事務局	<p>「学校版環境 ISO」が「させぼエコアクションスクール」に置き換わるのかといった質問については、そのとおり、計画書の書き込み、目標値についても、置き換わることとなる。</p> <p>現在の認定校の取り扱いについては、認定期間が終了し次の申請をしていただく時点で、新たな制度での申請をしていただくように考えている。</p> <p>具体的に、どう取り組みやすくなったのかというところは、本日配布している「させぼエコアクションスクール」の取り組み方に記載している。</p> <p>変更内容として、8様式あったものを3様式とすることや、それぞれの学校で考えてもらっていた目標についてはチェックを入れてもらう選択制とし、担当される先生方の負担低減を行っている。</p> <p>認定期間終了後は、報告書及び申請書を再度提出していただいていたものを、報告書を提出していただくことで、申請に代えることとしている。</p>
事務局	<p>委員ご提案の自治組織内のアプリというのは「マチマチ」のことか。</p> <p>「マチマチ」に関しては、公式アカウントの取得などできるように考えていきたい。</p>
委員	<p>学校というところは、世の中のさまざまな事象に教育という言葉がついて、国際教育や人権教育といったように、それぞれの分野での立場で学校での啓発・取り組みが求められている。</p> <p>そういった中で、学校は教育課程もあるため、それぞれをバランスよく行っていくことが求められている。</p> <p>環境教育についても、世界的にも重要になってきている。例えば、平戸の南部地区では、学校と地域が協働して、EM 活性液を使用した泥団子を川の浄化のため投げ入れる取り組みがある。</p> <p>地域の取り組みに学校を取り入れてもらう、逆に学校の取り組みに地域の方が入り込んでいくといったような事例もある。</p> <p>すべての地域にすべての学校が同じ取り組みを行うことは難しいが、それぞれの地域、それぞれの学校の特色にあった環境教育を充実させる方法はあると思う。そこで、それぞれの学校、地域の特色を調査し、マップ上に落とし込んで、それぞれの地域・学校にあった環境教育を検討してはどうか。</p> <p>現在、インターネット等でフリーマーケットを検索すると、すごい数の件数が出てくる。佐世保市でも全域を対象としたフリーマーケットがエコプラザでできたら知ってもらえる機会となるのではないか。</p>

委員	<p>小佐々地区公民館では、講座が充実している。地区自治協議会との連携だけではなく、公民館のサマースクールなどとの連携も行ってはどうか。</p> <p>公民館の担当者は、何をやるか困っていることもあるので、公民館はコンテンツの提供が受けられ、環境部は環境教育が広められるといったウィンウィンの関係となるのではないか。</p>
委員	<p>壱岐市では、佐世保と同じように環境教育を熱心に行われている。佐世保市に比べコンパクトということもありやりやすいということがあるが、10年間かけて、年間2校ずつ全小中学校での環境教育を、授業とは別に、地球温暖化防止活動推進員が学校へ赴き、学校・行政・地域とが連携し各学校年間3回活動を行っている。</p> <p>一度に全校というのは難しいが、数年に分けて行うことで、先ほどもあったような偏りというのはなくなるのではないか。</p> <p>また、時代時代で状況も変わってくるので、学校と行政が連携してやっていけたら良いと思う。</p> <p>エコチャレンジシートについて、何年生を対象として、どれくらいの回収率なのか。</p>
事務局	<p>学校ではなく団体へ協力を求め今年度は、50件程度回収している。回収率については、各団体から希望数調査を行いシートを配布しているので、すべて回収している状況である。</p>
委員	<p>希望者ではなく、学校へ配布しお願いするということではできないのか。</p> <p>長崎県では、同じような取り組みを県内のすべての4～6年生約37,000人に配布し行っている。回収率は1,000件程度と非常に悪い。</p>
事務局	<p>どちらかという、子どもと保護者で家庭で取り組んでもらうものであるため、学校ではなくPTAにお願いするといったことがいいのではないかと思う。現在は、先生と保護者との距離がより近いと思われる学童へお願いしている。</p>

その他	
事務局	<p>協議会后、エコプラザの案内を予定している。</p> <p>今回も、「意見シート」を配布している。</p> <p>今回の協議会で発言できなかった意見などがあれば、2月28日（金）までにFAXやメールで事務局まで提出をお願いします。</p> <p>今回欠席の委員へも、今回の議事要旨と意見シートを送り意見をいただくこととしている。</p> <p>頂戴した意見については、来年度以降の環境教育に関する事業へ反映できればと考えている。</p> <p>今年度の協議会は今回で終了となり、次回の協議会は、来年度第1回目として6月で調整させていただきたいと考えている。</p> <p>また、3月8日（日）に、ビジターセンターの協力を得て九十九島の金重島での観察会を企画している。参加いただく委員におかれては、大変お忙しい中感謝する。詳細については、直接お知らせすることとする。</p> <p>観察会については、次回の協議会で報告させていただく。</p> <p>また、今まで報告させていただいた、出前講座などについて、それぞれの団体に積極的に活用していただければと思っている。</p> <p>併せて、アドバイザー・推進員のアクターとしてもぜひ登録を検討していただきたい。</p>

エコプラザ施設内見学	
エコプラザ	《エコプラザ内の施設見学》